

平成30年度 1月 (H31.1開催) 薬事委員会結果報告

1. 新規院外採用医薬品 (5品目)

No	医薬品名	区分	一般名	製薬会社	規格	薬価	薬効分類	備考
1	リン酸コデイン散1%「メタル」	先	コデインリン酸塩散	吉田	1g	¥9.60	鎮咳剤	1g・2gの分包品、既採用:[タケタ]
2	ミニリンメルトOD錠60μg	先	デスモプレシン	協和発酵キリン	1錠	¥114.40	ペプチド系抗利尿ホルモン剤	
3	ゾフルーザ錠10mg	先	パロキサビル マルホキシル	塩野義	1錠	¥1,507.50	抗インフルエンザウイルス剤	単回投与の抗インフルエンザ薬、 予防投与不可
4	ゾフルーザ錠20mg	先			1錠	¥2,394.50		
5	ラジレス錠150mg	先	アリスキレン	オーファンパシフィック	1錠	¥125.00	直接的レニン阻害剤	

2. 販売中止による切り替え採用医薬品 (1品目)

No	切り替え採用医薬品名	区分	一般名	製薬会社	薬価	薬効分類	販売中止医薬品名	区分	製薬会社	薬価	備考
1	ケーサブライ錠600mg (8mEq/錠)	後	塩化カルウム	アルフレッサ	¥5.60	徐放性カルウム剤	スローケー錠600m(8mEq/錠)	先	ノバルティス	¥6.00	経過措置満了日:2020年3月31日

3. 医薬品情報室より

重要な添付文書改訂について: DSU(医薬品安全対策情報) No.274-275 (2018.11-12)

医薬品一般名 改訂箇所		ラモトリギン		改訂内容		113 抗てんかん剤	117 精神神経剤
[重大な副作用]	追記	血球食食症候群:		血球食食症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、発熱、発疹、神経症状、脾腫、リンパ節腫脹、血球減少、高フェリチン血症、高トリグリセリド血症、肝機能障害、血液凝固障害等の異常が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。			

採用医薬品:ラミクタール錠

医薬品一般名 改訂箇所		アトルバスタチンカルシウム水和物		改訂内容		218 高脂血症用剤	
[原則禁忌]	削除	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。					
[重要な基本的注意]	追記	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい。やむを得ず併用する場合には、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。					
[原則併用禁忌]	削除	フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等)					

採用医薬品:リビートル錠

医薬品一般名 改訂箇所		シンバスタチン		改訂内容		218 高脂血症用剤	
[原則禁忌]	削除	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用することとし、本剤の投与量は10mg/日を超えないこと。					
[慎重投与]	追記	フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等)を投与中の患者					
[重要な基本的注意]	追記	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用することとし、本剤の投与量は10mg/日を超えないこと。急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい。やむを得ず併用する場合には、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。					
[原則併用禁忌]	削除	フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等)					

<院外>採用医薬品:リボバス錠

医薬品一般名 改訂箇所		ピタバスタチンカルシウム水和物		改訂内容		218 高脂血症用剤	
[原則禁忌]	削除	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。					

[重要な基本的注意]	追記	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。 <u>急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい、やむを得ず併用する場合には、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。</u>
[原則併用禁忌]	削除	フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等)

<院外>採用医薬品:リパロ錠

医薬品一般名	ブラバスタチンナトリウム		218 高脂血症用剤
改訂箇所	改訂内容		
[原則禁忌]	削除	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。	
[重要な基本的注意]	追記	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。 <u>急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい、やむを得ず併用する場合には、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。</u>	
[原則併用禁忌]	削除	フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等)	

採用医薬品:メバロチン錠

医薬品一般名	フルバスタチンナトリウム		218 高脂血症用剤
改訂箇所	改訂内容		
[原則禁忌]	削除	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。	
[慎重投与]	追記	フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等)を投与中の患者	
[重要な基本的注意]	追記	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。 <u>急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい、やむを得ず併用する場合には、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。</u>	
[原則併用禁忌]	削除	フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等)	

<院外>採用医薬品:ローコール錠

医薬品一般名	ロスバスタチンカルシウム		218 高脂血症用剤
改訂箇所	改訂内容		
[原則禁忌]	削除	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。	
[重要な基本的注意]	追記	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。 <u>急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい、やむを得ず併用する場合には、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。</u>	
[原則併用禁忌]	削除	フィブラート系薬剤[ベザフィブラート等(腎機能に関する臨床検査値に異常を認める場合)]	

<院外>採用医薬品:クレストール錠

医薬品一般名	フェノフィブラート		218 高脂血症用剤
改訂箇所	改訂内容		
[原則禁忌]	削除	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とHMG-CoA還元酵素阻害薬を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。	
[重要な基本的注意]	追記	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とHMG-CoA還元酵素阻害薬併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。 <u>急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい、やむを得ず併用する場合には、本剤を少量から投与開始するとともに、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。</u>	
[原則併用禁忌]	削除	HMG-CoA還元酵素阻害薬(ブラバスタチンナトリウム、シンバスタチン、フルバスタチンナトリウム等)	

採用医薬品:リビディル錠

医薬品一般名	ベザフィブラート		218 高脂血症用剤
改訂箇所	改訂内容		
[原則禁忌]	削除	腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とHMG-CoA還元酵素阻害薬を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。	

[重要な基本的注意]	追記	<u>腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とをHMG-CoA還元酵素阻害薬併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい。やむを得ず併用する場合には、本剤を少量から投与開始するとともに、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。</u>
[原則併用禁忌]	削除	HMG-CoA還元酵素阻害薬(プラバスタチンナトリウム、シンバスタチン、フルバスタチンナトリウム等)

<院外><限定>採用医薬品:ベザトールSR錠